

令和8年 10月1日	農作物病虫害発生予報 10月	山口県病虫害防除所
---------------	-------------------	-----------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	10
III	参考(予報の見方、気象予報)	11

I 予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	やや多	多	多
	ミカンハダニ	やや多	やや多	少
キャベツ	コナガ	やや少	少	少
イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並	前年並
	アブラムシ類	平年並	平年並	前年並
	ハダニ類	やや少	少	前年並
野菜全般	ハスモンヨトウ	やや多	やや多	多
	オオタバコガ	やや多	やや多	多
	シロイチモジヨトウ	多	多	多

お問い合わせ先

山口県農林総合技術センター(山口県病虫害防除所)

TEL (0835) 28-1211

FAX (0835) 38-4115

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

Ⅱ 予報

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	多	多	台風の影響前など荒天が予想される時

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%（平年8.2%）、発病果率3.8%（平年0.8%）、発病度1.8（平年0.3）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、10月の降水量はほぼ平年並（±）。

(3) 防除対策

<防除判断>

発生が見られるほ場や、高糖系温州みかん、ナツミカン、レモン等発病しやすい品種では、台風等強風の襲来前に防除を実施する。

また、事前に防除ができなかった場合は、台風通過後、なるべく早期に防除する。

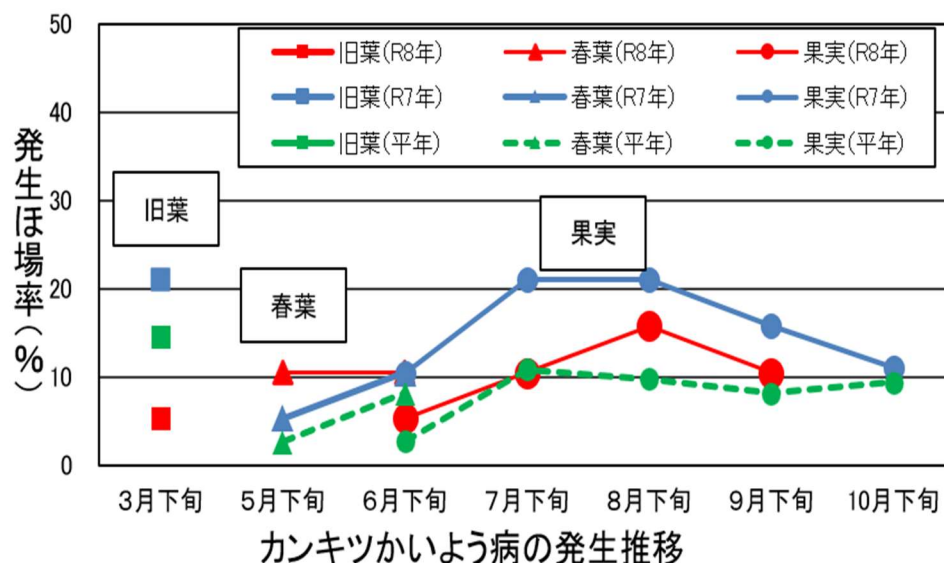
<耕種的防除等>

ア 秋に形成された病斑（潜伏病斑を含む）は翌年の有力な伝染源となるので、本病の発生した夏秋梢はできるだけ除去する。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、枝葉や果実への感染を防ぐ。

<防除のポイント>

温州みかん等かいよう病に比較的強い品種でも、伝染源が近くにある場合には多発することがあるので注意する。



2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	雌成虫の寄生葉率30～40%以上、または、雌成虫1葉当たり0.5～1頭程度

(2) 予報の根拠

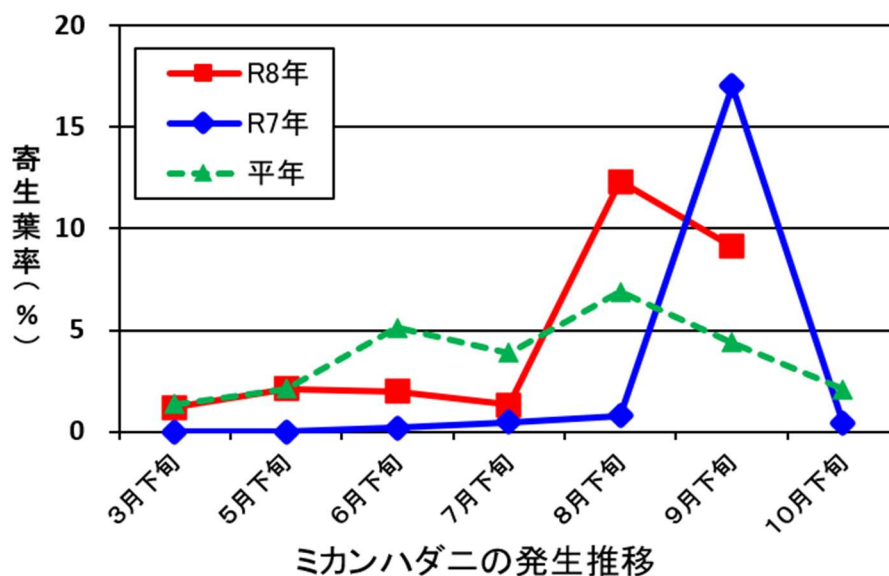
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率84.2%（平年23.5%）、寄生葉率9.1%（平年4.4%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

こまめには場を見回り、発生状況に注意する。



キャベツ

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	少	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

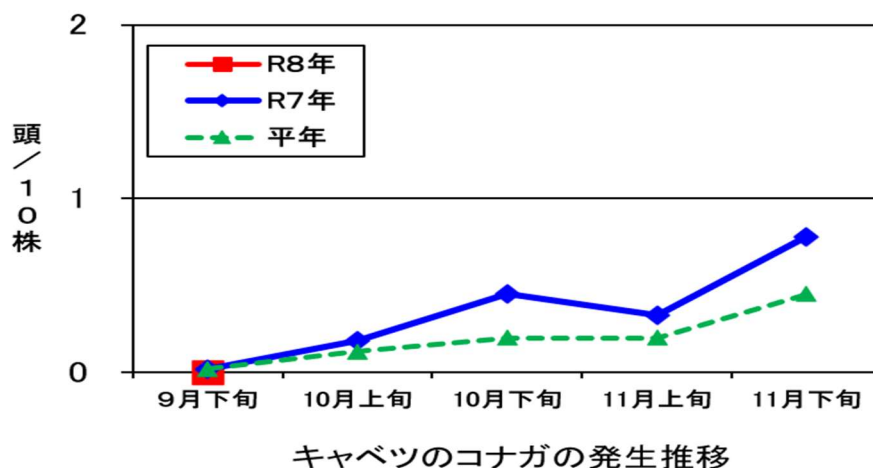
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年9.2%）、10株当たり虫数0頭（平年0.0頭）で平年に比べ少なかった（-）。

イ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病前または発病初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年3.6%）、発病株率0%（平年0.6%）、発病葉率0%（平年0.2%）で平年並であった（±）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

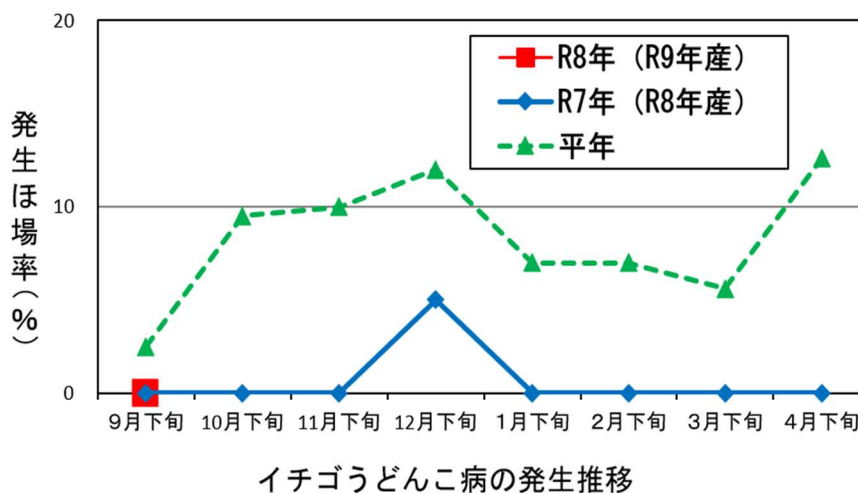
<防除のポイント>

ア 本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ 予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去して丁寧に散布する。

ウ アゾキシストロビン剤（アミスター）は耐性菌の発生が確認されているため、効果が劣る場合は他剤に切り替える。

エ 薬剤耐性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。



2 アブラムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%（平年22.8%）、寄生株率3.0%（平年3.7%）で平年並であった（±）。

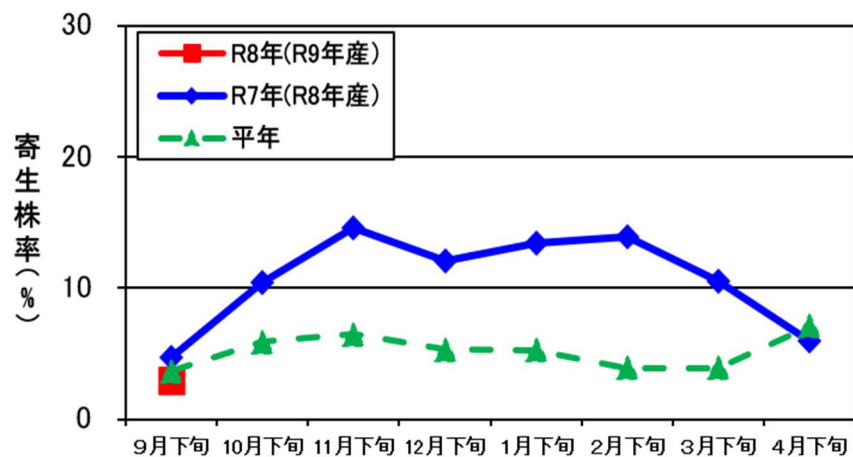
イ 気象予報では、10月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴのアブラムシ類の発生状況

3 ハダニ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	少	前年並	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年18.6%）、寄生株率0%（平年6.2%）で平年に比べ少なかった（-）。

イ 気象予報では、10月の気温は高い（+）。

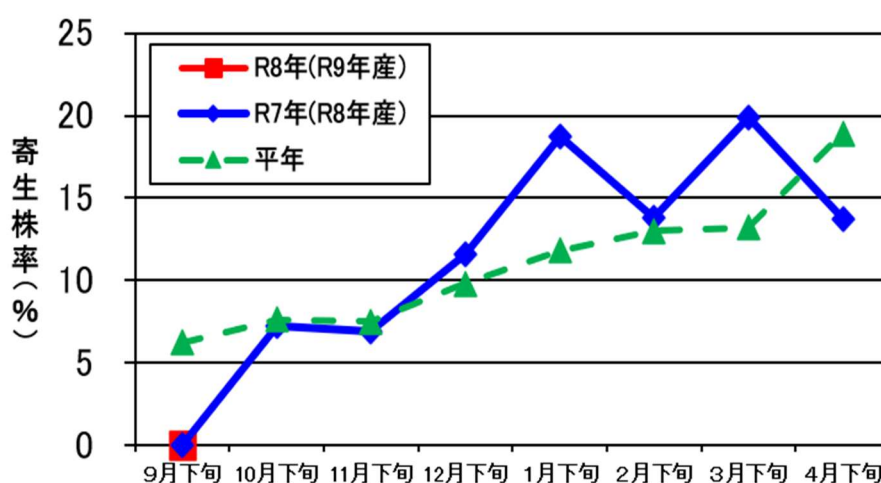
(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 薬剤散布を行う際には、不要な下葉を除去した後、葉の裏側に十分にかかるようにいねいに散布する。

イ ハダニ類の発生は、摘除した下葉を紙袋に入れて1日保管すると、ハダニ類が袋の上方に移動するため、容易に確認できる。

- ウ 化学農薬に対する抵抗性の発達が認められているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に散布を行う。
- エ 気門封鎖剤の多くは卵には効果がないため、7～10日後にもう一回散布する。
- オ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。
- カ 天敵（ミヤコカブリダニ）は次のことに注意して使用する。
- （ア）ハダニの発生前または発生初期に放飼する。
- （イ）すでにハダニが発生している場合は、天敵を放飼した後に、天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネ剤、ダニサラバ剤、スターマイト剤等）で防除する。
- （ウ）硫黄のくん煙は1日2時間程度とする。
- キ 開花期以降は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。



イチゴのハダニ類の発生推移

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

- ア 下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率83.3%（平年42.2%）、寄生株率9.2%（平年4.5%）で平年に比べやや多かった（+）。
- イ 下旬の巡回調査では、イチゴでの発生ほ場率10.0%（平年14.7%）、寄生株率0.4%（平年0.6%）で平年並であった（±）。
- ウ 8月21日～9月20日のフェロモントラップ(県内5か所)の誘殺数は8,467頭（平年9,414頭）で平年並であった（±）。
- エ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）。

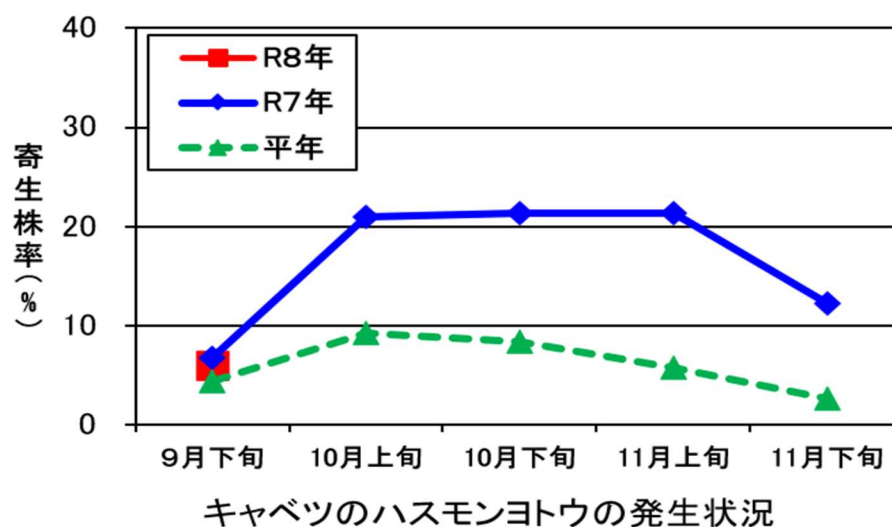
(3) 防除対策

<防除判断>

地域により発生時期・発生量にばらつきがあるので、定期的にはほ場を観察し、発生および被害を認めたら防除を実施する。

<防除のポイント>

- ア 若齢幼虫期の防除を徹底する。
- イ 卵塊や集団で食害している若齢幼虫は、見つけ次第捕殺する。
- ウ イチゴ等の施設栽培では、鉄骨パイプや天井ビニール等に毛に覆われた卵塊を見つて次第、直ちに捕殺する。
- エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



2 オオタバコガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

- ア 下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率33.3%（平年8.9%）、寄生株率1.7%（平年0.4%）で平年に比べやや多かった（+）。
- イ 下旬の巡回調査では、イチゴでの発生ほ場率0%（平年0.9%）寄生株率0%（平年0.2%）で平年並であった（±）。
- ウ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

地域により発生時期・発生量にばらつきがあるので、定期的にはほ場を観察し、発生および被害を認めたら防除を実施する。

<耕種的防除等>

- ア 幼虫は見つけ次第捕殺する。
- イ 被害のあった新芽や蕾、果実等は早期に処分する。

ウ 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm 以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。

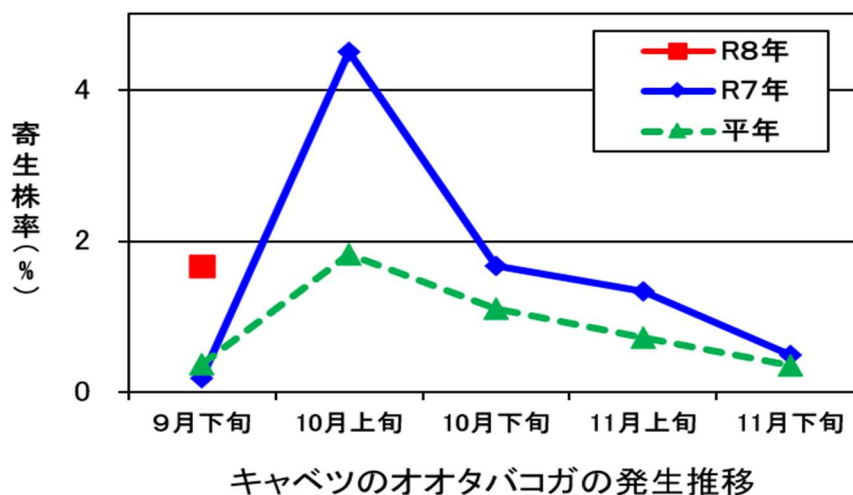
エ 黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、ほ場への侵入や作物への産卵を抑制できる。

<防除のポイント>

ア 中～老齢幼虫は内部に潜入し、防除効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

イ 薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加散布を実施する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



3 シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率50.0% (平年16.3%) 寄生株率5.8% (平年0.7%) で平年に比べ多かった (+)。

イ 気象予報では、10月の気温は高い、降水量はほぼ平年並 (+)。

(3) 防除対策

<防除判断>

地域により発生時期・発生量にばらつきがあるので、定期的にはほ場を観察し、発生および被害を認めたら防除を実施する。

<耕種的防除等>

ア 毛に覆われた卵塊や被害部位は見つけ次第除去する。

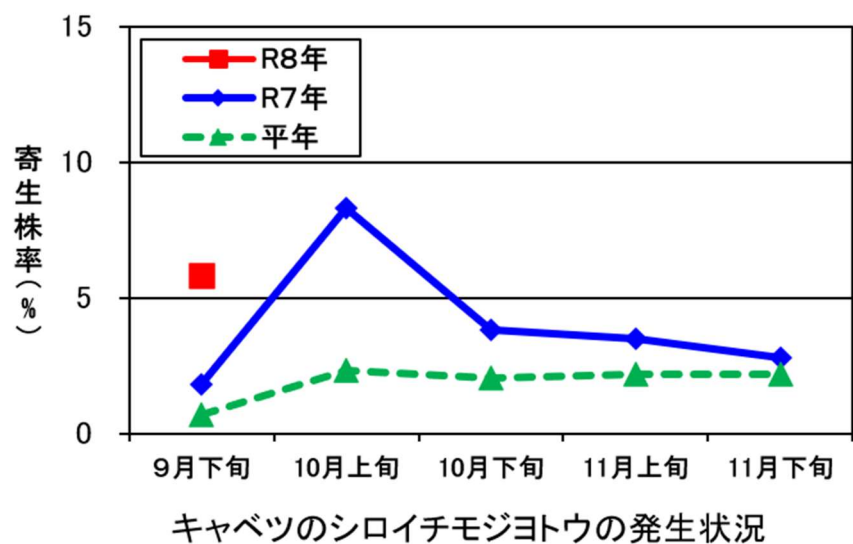
イ 施設栽培では、開口部に防虫ネット(目合い4mm 以下)を設置し、成虫の侵入防止に努める。

<防除のポイント>

ア 定期的にはほ場をよく観察し、発生が認められた場合には直ちに防除を行う。

イ 薬剤散布後も、被害の拡大が認められる場合には、追加散布を実施する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
キャベツ	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多	少	16.7	3.7	
	ウワバ類	やや多	やや多	少	33.3	9.1	
	ヨトウガ	平年並	平年並	前年並	0	3.6	

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	やや多いの外側10%の度数の入る幅
やや多	平年並の外側20%の度数の入る幅
平年並	平年値を中心として40%の度数の入る幅
やや少	平年並の外側20%の度数の入る幅
少	やや少ないの外側10%の度数の入る幅

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	前年の評価より少ない発生
前年並	前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	より6日以上遅い
やや早い	より3～5日早い
やや遅い	より3～5日遅い
平年並	を中心として前後2日以内

(3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1 か月気象予報（9月24日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少ない	平年並 (%)	高 い (%) 多い
気 温	1 0	3 0	6 0
降 水 量	4 0	3 0	3 0
日照時間	2 0	4 0	4 0

週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	1 0	2 0	7 0
2 週 目	1 0	4 0	5 0
3～4 週 目	2 0	3 0	5 0